

活動の方針及び支援内容（児童発達支援プログラムとの相関性）

1. 放課後等デイサービスとは

児童福祉法に基づく障害児通所支援事業として、特別支援学校または特別支援学級、通常学級に所属するお子さんの放課後、長期休暇等の支援が中心となります。

障がいがあるお子さんに、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練や集団生活への適応訓練をおこなうことにより、自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進しています。

2. ウイング・ケアサービスの活動の方針（施設の特徴）

私たち大人は、感覚が薄れてしまっているということもありますが、思い起こせば、子供は、子供達同士が共に過ごす場に身を置き、多くのことを経験し、学び、試行錯誤しながら実践して、「失敗体験」や「成功体験」積むことにより成長していくということは、紛れもない事実であると言えるのではないのでしょうか。

放課後等デイサービス事業所 ウイング・ケアサービスでは、大人が決めたプログラムを提供することを重視する支援方針はとらず、個々のお子さんの特性を踏まえた課題の設定を行いながらも、日々のご自宅や学校での様子などをしっかりと把握して、当日の取り組みペースや内容に緩急をつけることにより、「自分自身で活動や行動を選択できた」ことを日々の活動成果として何よりも大切にしています。

学校やご家庭とは異なる、小学生から高校生までの様々なお子さんたちが同一空間で共に活動に取り組む環境の中で、お子さんたちは、個々に指導職員の支援を受けながら、「自分自身の居場所を探す」ことから始まり、楽しく「遊ぶ」ことを覚え、他者の遊びなどの活動に関心が向き、模倣等を経て「できること」が増えていきます。

私たちは、子供たちが子供たち同士で様々な刺激を与えあう空間で豊かな時間を過ごすことにより、「出来るようになった」ことが自然と増えていくこと、多様な人間関係の中で、「折り合いをつける」という社会性を養う場を提供することも大切な支援の一環であると考えております。

多様な仲間と過ごし、子どもたち一人ひとりが自分の世界を広げ、豊かな子ども時代過ごすことができること、習得した力を活用し、社会で生き抜く力を身に着けることができることを願って、日々の支援を提供しております。

3. 主な活動の内容

【健康・生活】

基本的な生活リズムや生活習慣を身に着けることができるよう、個々の特性を踏まえた上で、日常生活動作等の支援を行います。

（健康状態チェック、飲食・排泄・更衣等への支援、安全への配慮など）

【運動・感覚】

個々のお子さんに適した身体的、精神的、社会的な訓練を、様々な余暇活動や課題活動を通じて行います。

（屋外活動、リズム活動、運動活動、創作活動、個別課題活動、余暇活動など）

【認知・行動】

保有する感覚や能力を十分に活用できるよう、遊びや知育・体育活動等の支援を行います。

（個別課題活動、創作活動、集団レクリエーション、余暇活動など）

【言語・コミュニケーション】

個々の特性を踏まえて、コミュニケーション能力の向上を図ることができるよう支援を行います。

（個別課題活動、運動活動、リズム活動、個別レクリエーション、集団レクリエーションなど）

【人間関係・社会性】

他者との関係を意識し、社会性の発達が見られるよう支援を行います。
(集団レクリエーション、屋外活動、余暇活動など)

4. 5領域と支援プログラム（活動内容）の相関性は？

弊社で提供している、「安全な環境の中で、子供たちが自発的に遊びや活動を楽しむこと」を主眼に置いた支援提供の方法は、いくつかの科学的根拠のある支援プログラムの原則に該当しております。

主に、以下の9項目が該当するプログラムとなります。

各プログラムは、お子さん達の発達の異なる側面やニーズに対応するために設計されています。

それぞれが独自のアプローチや目標を持ち、放課後等デイサービス事業における総合的な支援を提供するために、組み合わせて活用している場合もございます。

(1) ABA：応用行動分析(Applied Behavior Analysis)【健康・生活】【認知・行動】

ABAは、行動を観察し、それに基づいて介入を行うことで望ましい行動を強化する方法です。自閉症スペクトラム障害(ASD)を持つお子さん達の社会的スキル、コミュニケーション、学習能力の向上に効果的であることが多くの研究で示されています。

(2) TEACCH：構造化教育 (Treatment and Education of Autistic and related Communication-handicapped Children)【健康・生活】【認知・行動】

TEACCHプログラムは、構造化された環境を提供することを重視するプログラムです。

視覚的な支援を活用し、日常生活のスキルや独立性を高めることに焦点を当てています。

TEACCHプログラムでは、構造化された環境を提供し、お子さん達が安心して活動できるようにすることが重要であり、このプログラムの原則に沿って、レゴブロックや粘土遊びなど、子供たちが自分で選んで活動する機会を提供しています。

(3) SIT:感覚統合療法 (Sensory Integration Therapy)【健康・生活】【運動・感覚】

感覚統合療法は、感覚情報の処理を支援し、子供たちの行動や感情の調整を助ける方法です。

安全で刺激的な環境を提供し、子供たちが自分のペースで遊びや活動を通じて感覚を統合する機会を持つことが、この療法の一部です。

自由遊びや余暇活動を通じて、お子さん達が自発的に関わりを持つ環境は、この療法の原則に合致しています。

レゴブロックや粘土遊びなどの余暇を充実させる活動は、感覚刺激を提供し、お子さん達が感覚を統合する機会を与えます。

自由遊びの環境は、この療法の原則に合致しています。

(4) PECS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (Picture Exchange Communication System)【健康・生活】【言語・コミュニケーション】

PECSは、絵カードを使ったコミュニケーションシステムで、特に言語に障害のあるお子さん達に効果的です。自己表現や意思疎通の手段を提供することで、お子さん達のコミュニケーション能力を向上させることを目指しています。

(5) NDBI：自然環境での学習 (Naturalistic Developmental Behavioral Interventions)【健康・生活】【認知・行動】

NDBIは、自然な環境でお子さん達が自発的に学習や活動に取り組む機会を提供するアプローチです。

自然な対話や遊びの中で、社会的スキルやコミュニケーションスキルを高めることを目指します。

この方法は、放課後等デイサービスでの自由遊びや課題活動に取り組む中で、お子さん達が自発的に交流する場面に非常に適しており、具体的な取組み例としては、レゴブロックや粘土遊び、絵描き、ダンスなどを通じて、お子さん達が自分たちで活動を選択し、楽しみながら学ぶ環境を提供します。

このアプローチは、遊びの中でお子さん達が社会的スキルや問題解決能力を自然に発展させることを目指しています。

(6) PMI：社会的相互作用の促進 (Peer-mediated Interventions) 【健康・生活】【人間関係・社会性】

PMIは、お子さん達同士の相互作用を通じて学習や課題への取り組みを促進する方法です。発達に課題を持つお子さん達が、同年代や様々な年齢の他の子供たちと一緒に活動することで、社会的スキルやコミュニケーション能力を向上させることを目指しています。放課後等デイサービスで、お子さん達が自由に交流し、自然な関わりを持つ環境を提供することは、このアプローチに該当します。

指導職員が必要最小限のサポートを個々のレベルに合わせて提供し、お子さん達が自然にお互いに関わり合いながら活動することで、社会的スキルやコミュニケーション能力を自らの力、自らのペースで向上させることを目指しています。

(7) DPT:発達の遊び療法 (Developmental Play Therapy) 【健康・生活】【人間関係・社会性】

発達の遊び療法は、お子さんが遊びを通じて社会的スキルや感情の調整を学ぶ方法です。お子さんが自分たちで遊びを選び、自由に活動する中で、指導職員がそのプロセスを見守りながら、必要なサポートを提供することで、お子さんの自主性と社会的関わりの芽生えの醸成及び促進を目指します。自然な遊びの中で、お子さんが自発的に関わり、学び合う環境は、この療法の目的に一致しています。

(8) SDT:自主性支援 (Self-Determination Theory) 【健康・生活】【人間関係・社会性】

自主性支援の理論は、お子さんが自分で選択し、自己決定を行うことの重要性を強く意識しています。安全な環境下で、指導職員の支援を受けながら、お子さんが自分で活動を選び、他のお子さん達と共同で取り組むことで、自主性や内発的動機を高めます。私たちは、この理論に基づき、お子さん達が享受すべき、自主性支援にふさわしい環境の構築を常に意識して、支援に従事しています。

(9) SS:ソーシャルストーリー (Social Stories) 【健康・生活】【言語・コミュニケーション】

Social Storiesは、特定の社会的状況や行動についての短いストーリーを作成し、お子さん達にその状況に対する理解を深めてもらう方法です。予測可能性を高め、不安を軽減する効果があります。

弊社で提供している自由な余暇活動やコミュニケーションの場は、NDBIやPMIを含む複数の科学的に根拠のある発達支援プログラムの原則に基づいています。

お子さん達が安全な環境で自発的に学び、成長する機会を提供することは、これらのプログラムが目指す目標に合致しています。

わたし達の取り組みは、NDBIやPMI、発達の遊び療法、感覚統合療法、自主性支援理論、TEACCHプログラムなどの科学的に根拠のある支援プログラムと多くの点で関連しています。

お子さん達が自発的に活動を選び、楽しみながら学び合う環境は、これらのプログラムが目指す目標に合致しています。

引き続き、こうした環境を提供し続けることは、お子さん達の発達と成長に大いに役立つと私たちは考えています。

5. 各プログラムの具体的な実践事例

(1) ABA：応用行動分析 (Applied Behavior Analysis)

ABA（応用行動分析, Applied Behavior Analysis）は、行動科学の原則を用いて望ましい行動を促進し、問題行動を減少させるアプローチです。放課後等デイサービス事業において、ABAを実践することで、知的障害のあるお子さん達が安全な環境の中で適切な行動を学び、自己成長を促すことができます。以下に、ABA

の具体的な弊社の実践事例をいくつか紹介します。

ABA の具体的な実践事例

① ターゲット行動の設定と計画 (Target Behavior Identification and Planning)

事例：特定の目標行動を設定し、それを達成するための計画を立てます。例えば、社会的な行動やコミュニケーションスキルの向上、日常生活スキルの獲得などを目指します。

実践方法：指導職員はお子さん達の個々のニーズに合わせて目標を設定し、それに向けた具体的なステップを計画します。目標は定量的に測定可能であり、進捗を追跡しやすいように設定されます。

② ポジティブリフォースメントの使用 (Utilizing Positive Reinforcement)

事例：望ましい行動を示したお子さん達に対して、ポジティブな強化を行います。例えば、適切なコミュニケーションや協力的な行動に対して、称賛やご褒美を与えます。

実践方法：指導職員はお子さん達の好みや興味に合わせて、個別に適切なポジティブリフォースメントを提供します。具体的な行動に即時かつ適切なフィードバックを行い、望ましい行動の維持や増加を促します。

③ 行動分析とデータ収集 (Behavior Analysis and Data Collection)

事例：お子さん達の行動を分析し、データを収集して行動の変化を評価します。目標行動の達成度や進捗状況を定量的に把握します。

実践方法：指導職員は行動の起因やパターンを理解し、適切な介入を計画するためにデータを収集します。日々の行動観察や記録、特定の行動を測定するための評価ツールの使用などが含まれます。

④ 行動変容プランの実施 (Implementation of Behavior Modification Plans)

事例：行動変容プランに基づいて、お子さん達の行動を改善するための具体的な介入を行います。例えば、ポジティブなリフォースメント、指示や手順の明確化、行動のモデリングなどです。

実践方法：指導職員は個々のお子さんに適切な介入を行い、行動変容プランに沿って適切な強化を行います。介入の効果を評価し、必要に応じて計画を調整します。

⑤ 自己管理の訓練 (Self-Management Training)

事例：お子さん達に自己管理のスキルを教え、自己コントロールを向上させるトレーニングを行います。例えば、ストレス管理や感情の調整、目標設定や自己評価などです。

実践方法：指導職員はお子さん達に自己管理の技術を教え、日常生活の中で実践する機会を提供します。具体的な手法や戦略を指導し、お子さん達が自己効力感を高めるよう支援します。

これらの実践事例のように、ABAの原則を放課後等デイサービス事業に適用しています。

私たちは、お子さん達が安全な環境の中で望ましい行動を学び、自己成長を促すことで、社会的スキルや自己管理能力が向上し、他者との関係を築く力が強化されると考えています。

(2) TEACCH : 構造化教育 (Treatment and Education of Autistic and related Communication-handicapped Children)

TEACCH (Treatment and Education of Autistic and related Communication-handicapped Children) は、自閉症スペクトラム障害 (ASD) のお子さん達に対する教育プログラムで、環境への適応や自己管理のスキルを向上させることを目的としています。

放課後等デイサービス事業において、TEACCH プログラムの実践を取り入れることで、知的障害のあるお子さん達が安全な環境の中で自己成長を促すことが期待できます。

以下に、TEACCHの具体的な弊社の実践事例をいくつか紹介いたします。

TEACCH の具体的な実践事例

① ビジュアルスケジュールの使用 (Using Visual Schedules)

事例：お子さん達が日常生活の活動やタスクを理解しやすいように、ビジュアルスケジュールを導入しま

す。例えば、活動やイベントを写真や絵カードで表示し、順番に並べて示します。

実践方法：指導職員はお子さん達が理解しやすい形式でスケジュールを作成し、適切な場所に掲示します。お子さん達は自分のスケジュールを見て、次に何をするかを把握しやすくなります。

② 作業領域の整理 (Structured Work Areas)

事例：お子さん達が作業する場所を整理し、集中して取り組めるようにします。個々のお子さんに合わせた作業スペースを設け、必要な教材や道具を整然と配置します。

実践方法：指導職員はお子さん達に自分の作業スペースを示し、必要な教材や道具の使用方法を教えます。作業領域は明確に区切られ、お子さん達が混乱せずに作業に集中できるようにします。

③ タスクのビジュアル化 (Visual Task Organization)

事例：お子さん達が行うべきタスクを明確にビジュアル化します。タスクの手順や要素を絵カードや図表で示し、お子さん達が理解しやすくします。

実践方法：指導職員はお子さん達にタスクを一つずつ理解させ、達成するための手順を示します。ビジュアル支援を通じて、お子さん達が自分の進捗状況を把握しやすくします。

④ 自己管理スキルの育成 (Promoting Self-Management Skills)

事例：お子さん達が自己管理スキルを身につけるためのトレーニングを行います。自分で作業を始める、集中して取り組む、作業が終わったら片付けるなどのスキルを育成します。

実践方法：指導職員はお子さん達に自己管理の重要性を教え、具体的なスキルを練習させます。フィードバックやポジティブリフォーメントを通じて、自己管理のスキルを強化します。

⑤ ソーシャルストーリーの使用 (Using Social Stories)

事例：ソーシャルストーリーを活用して、お子さん達が社会的な振る舞いや相互作用を理解する支援を行います。例えば、新しい環境やイベントに対するストーリーを作成し、お子さん達が準備をする手助けをします。

実践方法：指導職員はお子さん達にソーシャルストーリーを読み聞かせ、理解を深めます。ストーリーを通じて、お子さん達が新しい状況に適応しやすくなります。

これらの実践事例のように、私たちは TEACCH プログラムの原則を放課後等デイサービス事業に取り入れています。

私たちは、子供たちが安全で支援的な環境の中で自己成長を促し、社会的スキルや自己管理能力を向上させることで、より豊かな生活を送ることができると考えております。

(3) SIT: 感覚統合療法 (Sensory Integration Therapy)

感覚統合療法 (Sensory Integration Therapy) は、感覚処理の問題を持つお子さん達に対して、感覚刺激を通じて身体の調整を促すアプローチです。放課後等デイサービス事業において、感覚統合療法の実践を取り入れることで、知的障害のあるお子さん達が安全な環境で感覚を調整し、ストレスを軽減し、学習や社会的参加を促すことができます。以下に、感覚統合療法の具体的な弊社の実践事例をいくつか紹介します。

感覚統合療法の具体的な実践事例

① 感覚刺激の提供 (Providing Sensory Input)

事例：お子さん達に異なる種類の感覚刺激を提供し、感覚処理を促します。例えば、触覚刺激として手や足などに適度な圧迫、視覚刺激としてライトなどの使用、聴覚刺激として音楽や自然音の再生などとなります。

実践方法：指導職員はお子さん達の感覚処理の特性に合わせて、適切な感覚刺激を提供します。お子さん達が快適に感じるような刺激を選択し、個々のニーズに合わせて調整します。

② 感覚統合的な遊びの提供 (Providing Sensory Integrated Play)

事例：感覚統合的な遊びや活動を提供し、お子さん達が感覚処理を身につける機会を提供します。例えば、バランスボードやスイングを使った運動遊び、粘土や砂遊びを通じた触覚刺激などです。

実践方法：指導職員はお子さん達に様々な感覚統合的な遊びを提供し、自己調整の能力を養います。お子さん達は自分のペースで遊びながら、身体の感覚を調整する方法を学びます。

③ リラクゼーション活動 (Relaxation Activities)

事例：お子さん達がリラックスして緊張を緩和するための活動を提供します。例えば、深呼吸や瞑想、ヨガのポーズなどを行います。

実践方法：指導職員はお子さん達にリラクゼーションの重要性を教え、リラクゼーション技法を実践させます。お子さん達がストレスや不安を感じたときに自己調整する方法を学びます。

④ 感覚刺激の調整 (Sensory Regulation)

事例：お子さん達が過剰または不足している感覚刺激に対して、適切な調整を行います。例えば、感覚過敏なお子さんには刺激を緩和し、感覚低感覚なお子さんには刺激を増やします。

実践方法：指導職員はお子さん達の感覚処理の特性を理解し、適切な刺激の調整を行います。お子さん達が自分の感覚を調整する方法を学び、快適な状態を維持します。

⑤ 感覚統合的な学習環境の提供 (Providing Sensory Integrated Learning Environment)

事例：お子さん達が感覚統合的な学習環境で学ぶ機会を提供します。例えば、学習教材や教室の配置、照明や音響環境などを工夫します。

実践方法：指導職員はお子さん達の学習環境を最適化し、感覚統合的な学習を促進します。お子さん達が集中して学び、ストレスなく参加できる環境を提供します。

これらの実践事例のように、私たちは、感覚統合療法の原則を放課後等デイサービス事業に取り入れています。

私たちは、お子さん達が安全かつ適切な支援を得ることができる環境の中で、感覚処理を調整し、学習や社会的参加を促すことで、より充実した日常生活を送ることができるように考えています。

(4) PECS: 絵カード交換式コミュニケーションシステム (Picture Exchange Communication System)

PECS (Picture Exchange Communication System) は、特にコミュニケーションが難しいお子さん達に効果的な方法です。以下に、放課後等デイサービス事業における PECS の具体的な弊社の実践事例をいくつか紹介します。

PECS の具体的な実践事例

① 基本的な欲求の伝達

事例：お子さん達が基本的な欲求やニーズを伝えるために PECS を使用します。例えば、飲み物が欲しい時やトイレに行きたい時など。

実践方法：飲み物が欲しい場合、お子さんは飲み物の絵カードを選んで、指導職員に手渡します。

トイレに行きたい場合、トイレの絵カードを使って知らせます。

指導職員はお子さんがカードを選んだらすぐに反応し、要求を満たします。これにより、お子さんはカードを使うことで欲求が満たされることを学びます。

② 選択と好みの表現

事例：お子さん達が自分の好みや選択を表現するために PECS を使用します。例えば、おやつの時間に何を食べたいかを選ぶ場合など。

実践方法：おやつの時間に、いくつかのおやつを選択肢の絵カードを提供します（例：おせんべい、クッキー、チョコ）。

お子さんは自分が食べたいおやつカードを選んで手渡します。

指導職員は選ばれたおやつを提供し、選択の結果が即座に確認できるようにします。

③ 活動の選択とスケジュールの理解

事例：お子さん達が自分の活動を選んだり、スケジュールを理解したりするために PECS を使用します。

実践方法：毎日のスケジュールを視覚的に示すために、活動ごとの絵カードを使用します（例：遊び時間、課題活動時間、おやつ時間）。

お子さん達は次に何が起こるかを理解するために、スケジュールボードを参照します。

お子さん達が活動を選ぶ場合、選択肢として複数の活動カードを提供します。例えば、「レゴ遊び」や「お絵かき」のカードから選んでもらいます。

④ 社会的なやり取りの練習

事例：お子さん達が他のお子さんや指導職員と社会的なやり取りを練習するために PECS を使用します。

実践方法：遊びの時間に、子供が他の子供に遊びの提案をするためのカードを使用します（例：「一緒に遊ぼう」や「ボールを貸して」）。

支援員がその場でモデルとなり、適切な使い方を示します。

子供同士でカードを使ったやり取りができるように促し、成功した場合にはポジティブなフィードバックを与えます。

⑤ 感情の表現と理解

事例：お子さん達が自分の感情を表現するために PECS を使用します。

実践方法：感情カード（例：嬉しい、悲しい、怒っている）を使って、自分の感情を伝えます。

指導職員が感情カードを使って、お子さんが感じていることを理解し、適切な対応を取ります。

例えば、お子さんが「怒っている」カードを渡した場合、指導職員はその理由を尋ね、解決策を一緒に考えます。

実践のポイント

個別化：お子さん一人ひとりのニーズや理解力に応じて、個別に PECS を導入します。

視覚的支援：絵カードを用いることで、視覚的に理解しやすくします。

一貫した使用：日常的に継続して PECS を使用し、お子さん達が習慣的に利用できるようにします。

即時のフィードバック：お子さんがカードを使用した際には、即座に反応して要求を満たすことで、PECS の有効性を実感させます。

これらの実践事例のように、弊社放課後等デイサービス事業では PECS を活用し、お子さん達のコミュニケーション能力を向上させる支援を行うことも、必要に応じて行っています。

(5) NDBI：自然環境での学習 (Naturalistic Developmental Behavioral Interventions)

NDBI (Naturalistic Developmental Behavioral Interventions) は、お子さん達が自然な環境で自発的に学ぶ機会を提供するアプローチです。

特に放課後等デイサービス事業において、NDBI の具体的な実践事例を取り入れることで、知的障害のあるお子さん達が自分のペースで成長し、他者を理解しながら楽しく過ごすことができます。

以下に、NDBI の具体的な弊社の実践事例をいくつか紹介します。

NDBI の具体的な実践事例

① 自由遊びの時間を設ける

事例：放課後の時間に、お子さん達が自分で遊びを選べるようにします。例えば、レゴブロック、粘土、絵描き、パズルなどの選択肢を提供し、子供たちが興味を持つ遊びを自発的に選びます。

実践方法：指導職員はお子さん達が選んだ遊びを観察し、必要に応じてサポートを提供します。例えば、レゴブロックで遊んでいるお子さんに対しては、新しいアイデアを提供したり、一緒に遊ぶことで社会的な相互作用を促進します。

② グループ活動の導入

事例：小グループでの活動を計画します。例えば、協力して大きなパズルを完成させる、共同で絵を描く、グループでダンスをするなどの活動を通じて、お子さん達が自然に協力し合う場面を作ります。

実践方法：指導職員はグループのダイナミクス（集団特性）を観察し、お子さん達が困難に直面したときにサポートを提供します。例えば、意見の違いが生じたときに解決策を提案したり、役割分担を助けたりします。

③ 日常生活スキルの習得

事例：日常生活の中で学べる活動を取り入れます。例えば、簡単な料理やおやつ作り、掃除、整理整頓などを通じて、実生活のスキルを身につけます。

実践方法：指導職員は活動の各ステップを示し、お子さん達が自分で実行できるようにサポートします。簡単な料理の場合、材料の準備や手順の確認を一緒に行い、自分でできる部分を増やしていきます。

④ 自然なコミュニケーションの促進

事例：自然な場面でのコミュニケーションを促進する活動を取り入れます。例えば、ストーリーテリングやロールプレイングゲームを通じて、お子さん達が自分の考えや感情を表現する機会を提供します。

実践方法：指導職員はお子さん達のコミュニケーションの試みに対して積極的に反応し、質問を投げかけたり、感想を述べたりすることで対話を促します。

⑤ 興味を引き出す教材の使用

事例：お子さん達の興味を引き出す教材や活動を使用、提供します。例えば、動物や乗り物が好きな子供には、それに関連する本や動画、工作キットを提供します。

実践方法：指導職員はお子さん達の興味を尊重し、それを学習や社会的スキルの向上に繋げるように工夫します。興味のあるテーマを使って、他のお子さん達と共有する機会を設けます。

これらの実践事例のように、私たちは放課後等デイサービスの場で NDBI の原則を取り入れています。私たちは、お子さん達が安全で支援的な環境の中で自発的に活動し、学び合うことで、考える力や他者を理解する力が向上し、自ら選択して楽しむことができるようになって考えています。

(6) PMI：社会的相互作用の促進 (Peer-mediated Interventions)

放課後等デイサービス事業において、社会的相互作用の促進 (Peer-mediated Interventions, PMI) は非常に有効なアプローチです。

PMI は、お子さん同士が相互に学び合い、社会的スキルを向上させることを目的としています。

以下に、具体的な弊社の実践事例を紹介します。

PMI の具体的な実践事例

① ペア活動 (Pair Activities)

事例：年齢やスキルレベルが異なるお子さん達をペアにして活動を行います。例えば、年上のお子さんと同下のお子さんを組ませて、一緒に課題を解決するようにします。

実践方法：レゴブロックでの建築、絵本の読み聞かせ、パズルの完成などをペアで行います。年上のお子さんが年下のお子さんに教える場面を作り、自然な相互作用を促進します。

② グループゲーム (Group Games)

事例：複数のお子さんが協力して行うグループゲームを取り入れます。例えば、宝探しゲーム、チームでの工作活動、協力して行う運動ゲームなどです。

実践方法：ゲームのルールを説明し、お子さん達が役割を分担して協力するようにします。指導職員は観察しながら必要に応じてサポートし、お子さん達が協力し合う場面を増やします。

③ 共同プロジェクト (Collaborative Projects)

事例：お子さん達が一緒に取り組むプロジェクトを計画します。例えば、大きな壁画を描く、共同で物語を作る、グループでの劇を演じるなどです。

実践方法：プロジェクトのテーマを決め、お子さん達が意見を出し合いながら進めます。指導職員はファシリテーターとして、お子さん達のアイデアを引き出し、調整役を務めます。

④ ロールプレイング (Role-Playing)

事例：お子さん達が異なる役割を演じるロールプレイング活動を行います。例えば、お店屋さんごっこ、家族ごっこ (おままごと含む)、お医者さんごっこなど、日常生活のシーンを再現します。

実践方法：お子さん達が自分の役割を選び、シナリオを進めていきます。指導職員は適時に介入し、対話を促進したり、困ったときに助言をしたりします。

⑤ サークルタイム (Circle Time)

事例：日常的にサークルタイムを設け、お子さん達が一緒に話し合ったり、体験を共有する場を作ります。例えば、週末の出来事を話したり、好きなものについて語り合う時間を設けます。

実践方法：サークルの中で一人一人が順番に話す機会を持ちます。指導職員はファシリテーターとして、お子さん達が話しやすい環境を作り、質問やフィードバックを通じて対話を深めます。

⑥ フィールドトリップ (Field Trips)

事例：グループでの外出活動を計画し、公園等の自然の中での探索や博物館・動物園の訪問などを行います。

外出活動は、お子さん達が新しい環境で互いに協力し合う機会を提供します。

実践方法：活動の前に目標やルールを説明し、お子さん達がグループでの役割を分担して行動します。指導職員は観察しながら、自然な相互作用をサポートします。

これらの実践事例のように、PMIの原則を取り入れることで、知的障害のある子供たちが安全な環境の中で社会的スキルを養い、他者を理解し、自ら選んで楽しむことができることを目指しています。

引き続き、こうした環境を提供し続けることは、お子さん達の発達と成長に大いに役立つと私たちは考えています。

(7) DPT:発達の遊び療法 (Developmental Play Therapy)

発達の遊び療法 (Developmental Play Therapy) は、お子さん達の発達を促進し、社会的、感情的、認知的なスキルを向上させるために遊びを活用するアプローチです。

以下に、放課後等デイサービス事業における発達の遊び療法の具体的な弊社の実践事例をいくつか紹介します。

発達の遊び療法の具体的な実践事例

① 感情表現の促進

事例：お子さん達が感情を認識し、表現するための遊びを提供します。感情カードや絵カードを使って、子供たちが自分の感情を示す練習をします。

実践方法：指導職員はお子さん達に感情を理解する手助けをし、感情を認識し表現するための言葉や行動を学びます。お子さん達が自分の感情を受け入れ、適切に表現する練習をする機会を提供します。

② 社会的スキルの向上

事例：お子さん達が他者との関係を構築し、コミュニケーションスキルを向上させるための遊びを提供します。共同遊びや役割遊びを通じて、協力や相互作用を学びます。

実践方法：指導職員はお子さん達に社会的スキルを促進する遊びを提供し、他者との関係構築やコミュニケーションの重要性を理解させます。子供たちはリーダーシップや協力などのスキルを発展させる機会を持ちます。

③ 認知的スキルの強化

事例：お子さん達の認知的発達を促進するための遊びを提供します。パズルや問題解決ゲームなどの遊びを通じて、問題解決能力や記憶力を向上させます。

実践方法：指導職員はお子さん達に認知的スキルを養う遊びを提供し、問題解決や計画立案などの課題に取り組みさせます。お子さん達は自分の認知的能力を向上させることができます。

④ 自己表現の促進

事例：お子さん達が自己を表現し、アイデンティティを育むための遊びを提供します。絵画や工作、演劇などの創造的な活動を通じて、お子さん達が自己表現をします。

実践方法：指導職員はお子さん達に自己表現の重要性を教え、様々な方法で自分自身を表現する機会を提供します。お子さん達は自分の感情や考えを表現し、他者と共有することができます。

発達の遊び療法は、お子さん達の発達を促進するために非常に有益な手法です。

(8) SDT:自主性支援 (Self-Determination Theory)

自主性支援 (Self-Determination Theory, SDT) は、個人の内在的動機付けを促進し、自己決定性や自己効力感を高めることを目指す理論です。放課後等デイサービス事業において、SDTの原則を活用することで、知的障害のあるお子さん達が自己決定や自主性を育む環境を提供することができます。以下に、SDTの具体的な弊社の実践事例をいくつかご紹介します。

自主性支援（SDT）の具体的な実践事例

① 選択肢の提供

事例：お子さん達に選択肢を与え、自分で行動や活動を選択する機会を提供します。例えば、アクティビティの選択や参加の自由を与えます。

実践方法：指導職員はお子さん達に異なる選択肢を提示し、自分で興味や関心に合った活動を選択できるようにします。子供たちは自らの意思を尊重され、自己決定の経験を積むことができます。

② 目標設定とフィードバック

事例：お子さん達が自分自身の目標を設定し、進捗状況を確認するためのフィードバックを受け取ります。例えば、学習目標や行動目標を共有し、定期的に振り返ります。

実践方法：指導職員はお子さん達と共に目標を設定し、達成するための計画を立てます。達成度や進捗状況に応じてフィードバックを提供し、自己効力感や自己決定性を高めます。

③ 自己表現の機会の提供

事例：お子さん達が自己表現する機会を提供します。例えば、グループディスカッションやアートセラピーなどの活動を通じて、自分の考えや感情を表現します。

実践方法：指導職員はお子さん達が自己表現する場を設け、リスニングスキルやコミュニケーションスキルを育みます。お子さん達は自分の声を発信し、他者との関係を深めることができます。

⑤ 意味ある関係の構築

事例：お子さん達との意味ある関係を構築し、信頼関係を築きます。お子さん達が自分の意見や希望を尊重され、参加意欲を高めます。

実践方法：指導職員はお子さん達と対等な関係を築き、互いに尊重し合います。お子さん達は安心感を得て、自己決定性や自己効力感を育むことができます。

これらの実践事例のように、自主性支援の原則を放課後等デイサービス事業に取り入れています。

お子さん達は自己決定や自己効力感を高め、より充実した日常生活を送ることができると私たちは考えています。

(9) SS: ソーシャルストーリー (Social Stories)

ソーシャルストーリーは、特定の状況や出来事に対する理解を深め、適切な行動を促すために使用されるツールです。

放課後等デイサービス事業におけるソーシャルストーリー (Social Stories) の具体的な実践事例についてご紹介します。

ソーシャルストーリーの具体的な実践事例

① 日常のルーティンを理解するためのソーシャルストーリー

事例：朝の支度や帰宅時の準備など、日常のルーティンをソーシャルストーリーは、特定の状況や出来事に対する理解を深め、適切な行動を促すために使用されるツールです。

お子さん達が理解しやすいようにソーシャルストーリーを作成します。

実践方法：朝の支度に関するソーシャルストーリーを絵と短い文章で説明します。「起きたら、顔を洗って、歯を磨きます。その後、朝ご飯を食べて、制服に着替えます。」

帰宅時の準備についても同様にストーリーを作成します。「学校が終わったら、カバンを片付けて、手を洗ってからおやつを食べます。」

② 社会的なルールやマナーを学ぶためのソーシャルストーリー

事例：他者とのようにコミュニケーションを取るか、公共の場でのマナーを学ぶためのソーシャルストーリーを作成します。

実践方法：公共の場でのマナーに関するストーリー：「図書館では静かにします。他の人が本を読んでいるので、大きな声で話さないようにします。読みたい本があれば、そっと取って読みます。」

友達とのコミュニケーションに関するストーリー：「友達や指導職員に話しかけるときは、まず名前を呼びます。その後、優しく挨拶をします。もし友達や指導職員が忙しい場合は、待つか、後で話しかけるように

します。」

③ 特定のイベントや変化に対する準備のためのソーシャルストーリー

事例：新しい場所に行く、病院に行く、または特定のイベントに参加する際の不安を軽減するためのソーシャルストーリーを作成します。

実践方法：病院に行く際のストーリー：「今日は病院に行きます。まず受付で名前を言います。次に待合室で待ちます。医師に呼ばれたら、診察室に入ります。診察が終わったら、受付で会計を行い処方箋をもらいます。」

新しい場所に行く際のストーリー：「今日は新しい公園に行きます。公園にはブランコや滑り台があります。みんなで順番に遊びます。お友達が遊んでいる間は待ちます。」

④ 感情の理解と管理のためのソーシャルストーリー

事例：自分の感情を理解し、適切に表現するためのソーシャルストーリーを作成します。

実践方法：怒りを感じたときのストーリー：「怒りを感じたときは、まず深呼吸をします。自分が何に怒っているのか考えます。もし落ち着かなければ、指導職員に相談します。怒りを感じても、手を出してはいけません。」

悲しみを感じたときのストーリー：「悲しみを感じたときは、涙が出ることがあります。悲しい気持ちを誰かに話すと楽になります。友達や指導職員に話しても大丈夫です。」

実践のポイント

個別化：各お子さんのニーズや理解力に合わせて、ソーシャルストーリーを個別に作成します。

視覚支援：絵や写真を多用して、視覚的に理解しやすくします。

繰り返しの使用：ソーシャルストーリーを定期的に読み聞かせ、繰り返し使用することでお子さん達の理解を深めます。

肯定的な表現：可能な限り肯定的な表現を使用し、お子さん達に成功体験を持たせます。

これらの実践事例のように弊社では、放課後等デイサービス事業でソーシャルストーリーを活用し、お子さん達がよりよい社会的スキルや自己理解を深められるよう支援を行っています。

6. タイムスケジュールに基づくご利用例

※平日のご利用例

時間帯	領域	主な項目	主な支援プログラム
14:30～ 14:45	健康・生活/認知・行動	体調確認・保清・排泄・更衣・準備	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (8) SDI：自主性支援
14:45～ 15:15	運動・感覚/認知・行動	創作活動（多素材による個別アート活動）、音楽活動（音楽療法に基づくリトミック、楽器演奏）	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (7) DPI：発達の遊び療法 (8) SDI：自主性支援
15:15～ 15:30	認知・行動/人間関係・社会性	片付け、準備	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
15:30～ 15:45	健康・生活/認知・行動/言語・コミュニケーション	排泄、おやつ、片付け	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育

15:45～ 16:15	運動・感覚/認知・行動 /言語・コミュニケーション	運動遊び（粗大運動/キャッチボール、ス ラッグアウト等）	（４）PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム （５）NDBI：自然環境での学習 （６）PMI：社会的相互作用の促進 （８）SDI：自主性支援
16:15～ 16:45	運動・感覚/認知・行動 /言語・コミュニケーション	知育活動（机上での色弁別による箸つかみ 等の微細運動）、課題学習（個々に応じた設 定）	（１）ABA：応用行動分析 （２）TEACCH：構造化教育 （３）SIT：感覚統合療法 （５）NDBI：自然環境での学習 （６）PMI：社会的相互作用の促進 （７）DPI：発達の遊び療法 （８）SDI：自主性支援
16:45～ 17:00	運動・感覚/認知・行動 /言語・コミュニケーション	個別レクリエーション（玩具遊び、レゴブ ロック、アート創作、カードゲーム等）	（１）ABA：応用行動分析 （２）TEACCH：構造化教育 （３）SIT：感覚統合療法 （４）PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム （５）NDBI：自然環境での学習 （６）PMI：社会的相互作用の促進 （７）DPI：発達の遊び療法 （８）SDI：自主性支援 （９）SS：ソーシャルストーリー
17:00～ 17:15	健康・生活/認知・行動 /人間関係・社会性	片付け、排泄、更衣、準備	（１）ABA：応用行動分析 （２）TEACCH：構造化教育 （３）SIT：感覚統合療法 （４）PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム （６）PMI：社会的相互作用の促進 （８）SDI：自主性支援
17:15～ 17:30	言語・コミュニケーション/認知・行動/人間 関係・社会性	触れ合い、意思表示、折り合いをつける （スタッフや利用児童同士の自発的な交 流）	（１）ABA：応用行動分析 （２）TEACCH：構造化教育 （４）PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム （６）PMI：社会的相互作用の促進 （８）SDI：自主性支援 （９）SS：ソーシャルストーリー

※長期休暇中（祝日除く）全日利用の場合のご利用例

時間帯	領域	主な項目	
10:00～ 10:15	健康・生活	体調確認・保清・排泄・準備	（１）ABA：応用行動分析 （２）TEACCH：構造化教育 （４）PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム （８）SDI：自主性支援

10:15～ 11:15	運動・感覚/認知・行動 /言語・コミュニケーション	知育活動（微細運動/ビーズつなぎ等）、 課題学習（個々に応じた設定の学習課題）	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (7) DPI：発達の遊び療法 (8) SDI：自主性支援 (9) SS：ソーシャルストーリー
11:15～ 11:30	認知・行動/人間関係・ 社会性	片付け、準備、排泄	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
11:30～ 12:00	運動・感覚/認知・行動	玩具遊び(レゴブロック、プラレール等)、 運動遊び(キャッチボール、リズム体操 等)	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (7) DPI：発達の遊び療法 (8) SDI：自主性支援 (9) SS：ソーシャルストーリー
12:00～ 12:15	認知・行動/人間関係・ 社会性	片付け、準備	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
12:15～ 12:45	健康・生活/言語・コミ ュニケーション	昼食、片付け	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
12:45～ 13:00	認知・行動/人間関係・ 社会性	排泄、準備	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
13:00～ 15:00	認知・行動/人間関係・ 社会性/言語・コミュニ ケーション	集団レク（カードゲーム、ボーリングゲー ム等）、 屋外活動（広域公園での散歩等）	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (7) DPI：発達の遊び療法 (8) SDI：自主性支援 (9) SS：ソーシャルストーリー

15:00～ 15:15	認知・行動/人間関係・ 社会性	片付け、排泄、準備	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
15:15～ 15:30	健康・生活/言語・コミ ュニケーション	おやつ、片付け	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
15:30～ 16:00	運動・感覚/認知・行動	玩具遊び（個々で選択の玩具/パズル、見 立て遊び、ロールプレイ等）、運動遊び （ダンス）	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (7) DPI：発達の遊び療法 (8) SDI：自主性支援
16:00～ 16:15	認知・行動/人間関係・ 社会性	排泄、準備	(9) SS：ソーシャルストーリー (1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援
16:15～ 16:45	運動・感覚/認知・行動 /言語・コミュニケーシ ョン	知育活動（机上での色弁別による箸つかみ 等の微細運動）、課題学習（個々に応じた 設定）	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (7) DPI：発達の遊び療法 (8) SDI：自主性支援 (9) SS：ソーシャルストーリー
16:45～ 17:00	運動・感覚/認知・行動 /言語・コミュニケーシ ョン	創作活動（多素材によるアート活動、塗り 絵等）、 音楽活動（音楽鑑賞、フリームーブメント 等）	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (7) DPI：発達の遊び療法 (8) SDI：自主性支援
17:00～ 17:15	健康・生活/認知・行動	片付け、排泄、準備	(1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (3) SIT：感覚統合療法 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケー ションシステム (5) NDBI：自然環境での学習 (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援

17:15～ 17:30	言語・コミュニケーション/認知・行動/人間関係・社会性	触れ合い、意思表示、折り合いをつける (スタッフや利用児童同士の自発的な交流)	<ul style="list-style-type: none"> (1) ABA：応用行動分析 (2) TEACCH：構造化教育 (4) PEGS：絵カード交換式コミュニケーションシステム (6) PMI：社会的相互作用の促進 (8) SDI：自主性支援 (9) SS：ソーシャルストーリー
-----------------	-----------------------------	--	---

※上記は平日の一例です。季節のイベントやレクリエーション等で内容が変更となる場合や、体調がすぐれない、気持ちが乗らないなどの場合は、お子さんの緊張がほぐれ、疲れない方法で過ごして頂くこともございます。